

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|---------------|-----|--------|---------------|
| ○事業所名 | チャイルドウィッシュ末広 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 11月 17日 | | ～ | 2025年 12月 20日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 30人 | (回答者数) | 20人 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 11月 17日 | | ～ | 2025年 12月 20日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 9人 | (回答者数) | 9人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 1月 26日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 子どもたちが主体性をもって取り組める環境。 | 小集団の遊びを通して、子どもたちが中心になって話し合い、自分の考えを伝えたり、相手の気持ちに気づいたりしながら自己決定できるよう、職員は関わり方を意識しています。 話し合いの場では、気持ちや考えを言葉や視覚で整理することで、言語・コミュニケーションを支え、順番や人の意見を調整するという経験を通して、認知・行動、人間関係の育みにつなげています。 | 話し合いの振り返りや役割付与を取り入れ、自己決定の経験を積み重ねられるように努めます。また、心理的な安心感や感覚面の配慮を行いながら、主体的な行動が日常生活へと広がる支援の充実を図っていきます。 |
| 2 | 異年齢交流ができるため、自分の将来像を描きやすい。 | 日常的に異年齢の子と関わる機会を作ることで、年下の子への関わり方や年上の子の行動を学ぶ経験を大切にしています。また、年上の子の姿を目標として意識することで、活動への意欲が高まり、認知・行動面における見通しや自己調整力を育めるように意識しています。 | 異年齢交流の機会を意図的に作り、役割の付与や振り返りを行うことで、将来像をより具体的に描ける支援に発展させ、主体的な行動につながるように支援をしています。 |
| 3 | 遊びを通して、専門的な視点でお困り感の解消をすることができ るが職員が在籍しています。 | 子どもたちの楽しい気持ちを引き出しつつ、発達段階に合わせて療育ができるようにMTGで共有し、共通認識をもって支援をしています。 職員が子どもたちと同じように体を動かすことで、体の使い方や加減、感覚の調整を楽しみながら身に着けられるようにしています。 | より専門的な視点で療育ができるよう、外部の研修などにも参加し常に学んでいく姿勢を持ち、常に新しい知識を習得していけるように努めます。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 年齢の幅があるため、思い切った動きをすることが難しいことがある。 | 年齢の幅がある事で思った行動をすることが難しく消化不良になることがあり、満足した支援が出来ないことが時々あります。 | 少しの時間でも、高学年だけでの遊びをする時間を設けることで、少しでも気持ちの発散や満足感を感じることができるようになっています。 |
| 2 | 未就学や低学年のお子様もいる中で高学年のお子様にとって物足りないイベントが多くなってしまふ。 | 未就学児や低学年のお子さんにも参加のしやすいイベントとなると、イベントの難易度や内容が高学年のお子さんには物足りなくなってしまう事があります。 | 子ども一人ひとりの発達段階や課題に合わせて、イベントの企画から準備、実行までを一緒にを行い、主体的に活動へ参加できる機会を設定していきます。その過程においては、役割分担や意思決定の場面を大切に、自立に向けた適切な声掛けや関わりを行いながら、自己決定力や社会性の向上につなげていきます。 |
| 3 | | | |